

準規格に準拠した1Gbit/sのほか、テクノバスが独自に開発した2Gbit/sにも対応している。PONポート当たり最大64台の基地局を収容でき、最大伝送距離20km、子機までの距離に依らず±0.5マイクロ秒以下の精度で時刻情報を配信可能なため、ブロードバンド無線基地局を収容するバックホール・アクセスとして十分な性能を発揮する。

このシステムにより、基地局のGPS受信機が不要となり、コスト高の要因となっていたGPS信号

配信用の同軸ケーブルを敷設する必要がなくなるため、建設費を大幅に削減できる。さらにEPONは日本国内のFTTHの主流方式として機器の低廉化が図られていることから、屋内エリア構築のトータルコストを従来の2分の1以下に削減できる。ブロードバンド無線アクセスシステムの低コスト化と展開の加速に大きく寄与することが期待されている。

世界銅需要予測に基づく日本及び中国の非鉄金属リサイクルの現状と展望⑥

橋本健一郎氏講演要旨

では世界経済の動向はどうなるのだろうか。FRBや財務省は金利引き下げや公的資金注入を行っているが景気後退を止めることができないことやまたFRBのマエストロ(巨匠)といわれたグリーンズパン前議長でさえ「100年に一度の津波」「自由すぎるマーケット主義は誤りであった」とも発言していることを考えるとレーガノミクスから始まり約30年続いた金融至上主義、マーケット至上主義の終焉だと考えられる。

大統領のオバマ氏はケインズ経済学の有効需要の創出理論を用いてルーズベルト大統領のニューディール政策を基にしたグリーンニューディール政策(公共投資による環境、エネルギー革命によ

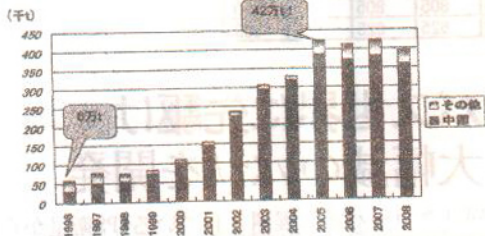
る雇用創出)を行うと発表している。そしてそのエネルギー革命とはOILに変わる電気エネルギーを有効創出、有効利用することであり今後電気関係に重要な伸銅品にエネルギー革命特需が起る可能性がある。

その重要な伸銅品にとって、リサイクル原料はどのような位置づけなのか。日本伸銅協会や経産省による統計によれば、伸銅品におけるリサイクル原料の原料比率は約6割と非常にリサイクル率の高い製品となっている。また銅リサイクル原料中の約80%(銅線、ナゲット、上銅)がNEWリサイクル原料で成り立っており、さらに黄銅リサイクル原料においては73%(削り粉、新黄銅、新コロなど)がNEWリサイクル原料で成り立っている。つまりNEWリサイクル原料なしに伸銅品生産は考えられないのである。

しかし、グラフを見ても分かるように、①世界への輸出量は96年の6万トンから10年で7倍の42万トンになり、②うち9割が中国向けとなった。08年は世界景気の後退で07年比で0.5%程度減速しているが、銅リサイクル原料の国内需給バランス

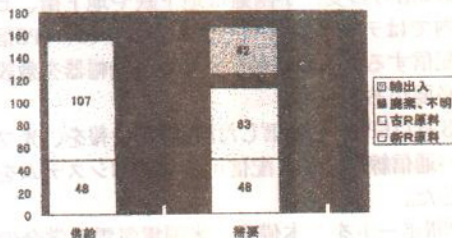
銅系リサイクル原料の輸出量

◆世界への輸出量は、96年から10年間で約7倍に
(※内、90%が中国向け)



銅及び銅合金R原料の国内バランス

- 供給166万tに対し需要は153万t 13万tの過
- 輸入の11万tを抜くとほぼ均衡
- NEW R原料はまだ国内主流



鉛

減摩合金

鉛 洋・半田 洋

錫 洋・鉛管板 屑

株式会社 國 樹 商 店

〒556-0011 本 社 大阪市浪速区難波中1-16-8

電話 06-6649-0045 代表

〒556-0023 工 場 大阪市浪速区稲荷1-11-5

電話 06-6561-7331~2